



個の力が不可欠でした。ですが、私が国家試験に合格できたのは同期のみんなのおかげなのです。というのも、私たちは、国試応援メッセージというのを毎日順番に作成して共有していました。国家試験まであと〇日！として個人個人の趣向を凝らした応援動画を毎日見ることで、私はこの仲間たちと一緒に医師になりたいという気持ちが強くなったのを今でも覚えています。

また、医学情報センターで合同で勉強してました。国試前は毎日時間を決めて勉強し、集まって問題を出し合うことで自分の知らなかった知識をたくさん得ることができたように感じます。

もちろん一人での勉強もしましたが、不安やたるむ心を引き締めて勉強に向かわせてくれたのは同期たちの存在でした。個の力だけでなく、チームの後押しで医師としてのスタートをきることができました。今年は全員合格とはなりません。

したが、彼らも必ず合格してくれると信じ、共に医師として活躍していけると信じております。これから働いていく中でも、同期たちの存在を大切にし、共に研鑽しながら学んでいきたいと思えます。

マッチングのころから横浜市立大学はチームで戦う印象が強く、一人一人が同期や後輩のことを思って行動する姿が印象的で、他大学の友人からも羨ましがられることが多くありました。幸運にも今の研修病院の同期たちも同様の雰囲気働いているようで、今後がとても楽しみに思います。

話は変わりますが、私の研修病院は慶應と市大の関連病院です。今後、私が今まで感じていなかった市大らしさ、良いところも良くないところも感じられると思います。

今の時点で、市大はどの人に対しても

第八十五回神奈川感染症医学学会学術奨励賞受賞にあたって

医学科六年 北堀 弘大

二〇一九年三月九日に横浜市情報文化センターで開催された第八十五回神奈川感染症医学学会におきまして発表を行い、学術奨励賞を受賞致しましたので報告させていただきます。

発表は「結核診断におけるTBAg/PHAB比の有用性および結果に影響する因子の検討」というテーマで行い、活動性結核と潜在性結核感染症の鑑別にスクリーニング検査であるT.SPOT検査の値を用い

平等に門戸が開かれていて、入局後も多様な出身の人たちと切磋琢磨していける環境であることを知りました。先述のようにチームで戦う団結力や、暖かい雰囲気は先輩方から脈々と受け継がれてきたものだと思います。今後私たちがその文化をつなぐ礎として、後輩たちに横市の良いところを伝えていけるように頑張っていきたいと思えます。

このように素晴らしい同期たちに出会い六年間を過ごすことができましたのも、横浜市立大の職員の方々や、俱進会の先生方の支えのおかげです。本当に感謝しております。また、まだまだ私たちは未熟であることを痛感いたします。先輩たちの胸を借り勉強させていただきます。今後とも今までのように時には厳しく、時には優しい御指導御鞭撻のほどよろしくお願い致します。六年間本当にお世話になりました。

新たな方法が、本邦において有用であることを明らかにしました。潜在性結核感染症の治療を行うことは、結核患者を根絶する上で重要であると考えられており、今回の結果が、治療が必要な潜在性結核感染症を簡単に鑑別する方法の確立につながっていくことを期待しています。

今回の発表に至ったきっかけは、実習中にお世話になった横浜市立大学附属病院の小林先生に学会発表をしてみない？



学会発表をする筆者

とお声をかけていただいたことです。これまで学会発表の経験がなかった私にとって、今回のお誘いは大変魅力的なものでした。結核に関して浅学であり、今回の研究テーマであるT.SPOT検査についてはほとんどから学ぶこととなり、指導して下さいました先生方には大変なご迷惑をおかけしましたが、本番では質問にも何とか自分の言葉で受け答えすることができ、準備の成果をお見せすることができて大変ほっとしたことを覚えております。

最後になりましたが、大変手厚いご指導を賜りました横浜市立大学呼吸器病学教室の金子猛教授、小林信明先生、片倉誠悟先生をはじめ多くの方にお世話になりました。この学会発表に至りました。この場をお借りして改めて厚く御礼申し上げます。